

大学非専攻日本語学習者のマルチメディア教材の利用状況をめぐって

——湖南大学の実態調査を中心に——

李 旦 莉*

キーワード: マルチメディア教材, 非専攻日本語, カリキュラム, アンケート調査

要 旨

中国において日本語教育が急速な展開を見せている現在, マルチメディアとネットワーク技術をベースに進んでいる日本語マルチメディア教材の開発は, 日本語学習者の多様化及び日本語教育の大衆化に適しているものだけでなく, 日本語教育の重要な研究課題として中国教育部をはじめ各大学や専門学校などでもたいへん重要視されている。

このような状況のもとで, 『日本語初級総合教程 CD-ROM 付』(監修 李旦莉)という日本語マルチメディア型教材が国家レベルの教材として中国教育部と日本国際交流基金の多大な支援を得て作られ, 2002年7月には中国高等教育出版社によって出版され, いま中国全土で市販されている。

この教材は中国国内にいる日本語初級コースの学習者だけでなく, 海外にいる中国人もこれを利用することができると考えられる。現時点において, 湖南大学では, この教材を利用した人はすでに2,000人以上に達している。この教材が出版されて以来, 各方面から好評を得ているが, 実際に使ってみると, 多くの利点がある一方で, 今後この教材をどのように改善し, 利用させたらいいのかといった課題も現われてくる。

そこで, 本稿は大学非専攻日本語教育の現状をふまえ, 湖南大学の『日本語初級総合教程』利用者を対象に行なったアンケート調査の結果を分析し, 大学非専攻日本語学習者のマルチメディア教材の利用状況, 利用者の学習モチベーション, 学習効果及び学習者からの声などについて述べる。これをもとに, マルチメディア教材利用上の利点と問題点を明らかにし, 大学非専攻日本語学習者に対するマルチメディア教材のよりよい利用法を探ってみたい。

1. はじめに

中国において日本語教育が急速な展開を見せている現在, マルチメディアとネットワーク技術をベースに進んでいる日本語マルチメディア教材の開発は, 日本語学習者の多様化及び日本語教

* LI Dali: 湖南大学外国語学院日本語学部。

育の大衆化に適しているものだけでなく、日本語教育の重要な研究課題として中国教育部をはじめ各大学や専門学校などでもたいへん重要視されている。

このような状況のもとで、『日本語初級総合教程』(CD-ROM 付)¹というマルチメディア日本語教材が国家レベルの教材として中国教育部と日本国際交流基金の多大な支援を得て作られ、2002年7月には中国高等教育出版社によって出版され、いま中国全土で市販されている。

この教材は中国国内にいる日本語初級コースの学習者だけでなく、海外にいる中国人もこれを利用することができると考えられる。現時点において、湖南大学では、この教材を利用した人はすでに2,000名以上に達している。この教材が出版されて以来、各方面から好評を得ているが、実際に使ってみると、多くの利点がある一方で、今後、この教材をどのように改善し、利用させたら良いのかといった課題も現われてくる。

そこで、本稿は大学非専攻日本語教育²の現状をふまえ、湖南大学の『日本語初級総合教程』(CD-ROM 付)利用者を対象に行なったアンケート調査の結果を分析し、大学非専攻日本語学習者のマルチメディア教材の利用状況、利用者の学習目的、学習効果及び学習者からの声などについて述べる。これをもとに、マルチメディア教材利用上の利点と問題点を明らかにし、大学非専攻日本語学習者に対するマルチメディア教材のよりよい利用法を探ってみたい。

2. 大学非専攻日本語教育の現状

2-1. 大学非専攻日本語教育における問題点

ここ数年来、世界の日本語教育が大きな変化を見せていると同時に中国の日本語教育も凄まじい勢いで発展してきた。そのうち、これまでさびしい存在だった大学非専攻日本語教育も注目され始めている。2001年7月7日から9日にかけて上海で行なわれた「新世紀第1回中国大学日本語教育研究国際シンポジウム」³の論文集によると、論文総数75部のうち、非専攻日本語教育に関する論文⁴が7部入っている。全体的には極わずかのものにすぎないが、中国の日本語教育界においてはほとんど無視されてきた非専攻日本語教育にこれほど関心が寄せられているのは実に喜ばしいことだと言えるであろう。

ただし、これらの論文を読んでも分かるように、90年代以降、各方面にわたる中国と日本の交流が深まるとともに中国の大学非専攻日本語学習者数が年々増える一方であるが、「教師不足

¹ 『日本語初級総合教程 CD-ROM 付』(監修 李昶莉)は『日本語初級教程』という日本語教育用インターネット教材をもとに作られた教科書である。

² 「非専攻日本語教育」はここで大学において日本語を第1外国語が第2外国語として選択され、それに関わる教育のことを指す。

³ 「新世紀第1回中国大学日本語教育研究国際シンポジウム」は2001年7月に上海で開かれ、その「論文集」(監修 徐敏民、韓小龍)は2002年10月、上海三聯書店によって出版された。

⁴ 論文集の紙面が限られているため、ほとんどのものがそのあらすじだけ述べられている。

から共通日本語⁵を十分に開講できず、学生の要望を満たせぬようである。」(王宏⁶ 1994: 195) まとめてみると以下のような問題点がとりあげられる。

- ① 学習者が増加しているのに対し、教師不足の問題が依然として存在している。
- ② 学習者の不安定性がよく指摘されている。特に選択科目コースの学習者は途中でやめる人が多いようである。
- ③ 学習時間が少ないのに対し、学習内容が多い。カリキュラムなどが完備されていない。
- ④ 学習者の学習目的の多様化に対応できるような理想的な教科書はない。
- ⑤ 第2外国語としての日本語教育は専攻日本語教育ほど重視されていないようで、多くの大学ではその授業を大学日本語科新卒の若手教師に任せている。
- ⑥ 関係部門にあまり重視されていない。教育設備や管理などの改善が迫ってきている。
- ⑦ 選択科目コースに与えられている単位数が少なく、学習者の目標達成に困難である。
- ⑧ これに関する学術論文や資料が少なく、相互間の交流や教育レベルの向上などに不利である。

2-2. 湖南大学における非専攻日本語教育の概況

湖南大学における非専攻日本語教育の概況を紹介する前に湖南大学の概況と湖南大学日本語学部の発展ぶりを先に紹介させていただきたい。

湖南大学は歴史の古い大学で、その前身は西暦紀元 976 年にできた岳麓書院に遡ることができる。今日にいたって既に千年以上の歴史を有している。1926 年に正式に湖南大学と名づけられ、1998 年に中国教育部の傘下にある大学となった。2000 年に近くにある湖南財政金融学院と合併し、現時点においては、学院⁷/学部は合わせて 30 であり、職員は 4,700 名である(そのうち、専任教師は約 1,800 名である)。在校している学部生は約 30,000 名で、修士課程、博士課程に在籍している大学院生は全部で 5,745 名である。(以上のデータは 2004 年に新しく作られた湖南大学のパンフレットによる)。

湖南大学での日本語教育は早くも 60 年代から始まり、一番最初は教師 1 人だけであった。1982 年から修士課程が設置され、1992 年正式に日本語学部が設けられ、その翌年から学部生の募集を始めたのである(計 31 名)。表 1 は 1995~2003 年にかけて湖南大学日本語学部の在籍教師の人数と学部生及び院生の人数の変遷を示している。

基本的には 1 クラスの人数が 20 名から 25 名までとされるが、教師不足に対し、学生数が年々

⁵ 「共通日本語」はここで「大学非専攻日本語」の意味を表している。

⁶ 「王宏」: 上海外国語学院教授, 中国日語教学研究会顧問。

⁷ ここでいう学院は英語の「school」という意味にあたり、学部(department)より規模が大きい。例えば外国語学院には英語学部、日本語学部などがある。

表 1 1995年からの湖南大学日本語学部の教師数と学生数

年 度	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年
教師数	9名	9名	9名	8名	10名	12名	15名	16名	20名
学生数	20名	28名	27名	31名	69名	100名	108名	118名	120名
院生数	3名	4名	4名	5名	5名	8名	8名	9名	13名

増えてきているため、現在、1クラスの学生数は約30名となっている。日本語科の学生の採用する教科書は学習科目によって各々違うが、精読授業に採用している教科書は上海外語教育出版社により出版された『新編日語』である。教育方法については教師によって違うことがあるが、教室における授業が主流となっている。2001年から「日本語視聴説」という科目が設けられたが、決まった教科書が使用されておらず、既存の日本語版ビデオなどを利用している。

それに対し、非専攻日本語教育の場合、湖南大学では英語はすべての学生の必修科目となっているが、日本語は第2外国語に位置付けられている。また、非専攻日本語教育コースの設置については、主として2種類のコースに分かれており、一つは英語や観光管理などを専攻している学生による第2外国語としての日本語コース、もう一つは学生全員向けの各自選択による選択科目としての日本語コースである。採用する教科書が授業担当教師によって決められることになっているため、統一した教科書が利用されていない。そして、いずれも学生が自分自身の意思により選択できる科目となっているので、それに応募する人数は定まらず、年々変わりつつある。選択科目コースを例にすると、1995年度あたりでは学生数が300名ぐらいであったが、2000年になると600名ぐらいに上がり、2001年は約800名、2002年の前半期は400名ぐらいであった。その後半期は担任教師がいなかったため、このコースが休講となっているところへ、マルチメディア教材『日本語初級総合教程』（CD-ROM付）がその年の7月に出版され、その使用効果を検証するために追加募集という形で新たに一つのクラスを開いたのである。それに参加した学生は僅か56名だけであった。しかし、2003年の前半期（2月から7月まで）になると、このコースに応募した学生数は843名にも達していた。教師一人でどうやってこの843名からなるコースに対応できたかについては、このコースに採用した『日本語初級総合教程』（CD-ROM付）というマルチメディア教材によるところが大きいと考えられる。

3. 湖南大学における非専攻日本語学習者のマルチメディア教材利用

3-1. マルチメディア日本語教材『日本語初級総合教程』（CD-ROM付）について

前述したように湖南大学で2002年から非専攻日本語教育に採用した『日本語初級総合教程』（CD-ROM付）は中国教育委員会の審査を受けた「大学日本語（第2外国語）教育大綱」をもと

表2 『日本語初級総合教程』(CD-ROM 付)の内容構成

文字教材				CD-ROM
本 冊			学習補導書	
ユニット	課	内 容	内 容	本冊・学習補導書の内容、画像・音声、テスト結果リアルタイム判定機能、中国語 ↔ 日本語辞典、録音機能など
1 発音入門	5	解説, 発音要領, 語例, 字源, 練習	テスト, 豆知識	
2 基礎訓練	10	会話, 文法・文型, 発表, 練習	類似表現分析, 訳文, テスト, 関連知識	
3 読解訓練	10	本文, 応用会話, 文法・文型, 練習, 関連知識	類似表現分析, 訳文, テスト	
付 録		単語索引, 文型・文法項目索引, 参考文献, CD-ROM 使用方法	3級・4級模擬試験, 日常会話, 解答	

に中国教育部と国際交流基金から多大な支援をいただき、湖南大学外国語学院日本語学部によって作られたものである。この教材の開発目的はコンピュータの優れた機能を利用し、マルチメディアによる学習法を日本語教育に採り入れ、学習目的が異なる中国の日本語学習者に最新の初級日本語教育用教科書を提供することにある。日本語を第2外国語として学習している大学生や専門学校の学生を学習対象とし、日本語を専攻している学生、放送大学、通信大学、夜間大学、日本への留学生、日系企業または合併企業の職員並びに一般の社会人もこれを利用することができる。内容構成については表2を参照していただきたい。

なお、学習時間は150時間前後で、教科書にCD-ROMがついているので、学習者はパソコンを使って独学で本教材を利用することができる。主な特色は以下の通りである。

1) コンピュータの優れた機能を生かし、文字・音声・画像などを一括処理している。CD-ROM、文字教科書、録音テープを通して、各方面から日本や日本語に関する知識を生き生きと学習者に紹介している。

2) 従来の教科書と違って文字教科書の内容をすべてCD-ROMに吹き込んでいる。学習者は自分のニーズに合わせて、学習したいところを即座に選択し、繰り返し練習することができる。

3) 学習者を主体として学習内容と教授法を考慮している。学習者の学習意欲を喚起するために内容の構成やおもしろさから、文字教科書のレイアウト、CD-ROM画面のデザイン、操作ボタンの使いやすさ、音声の正確さにいたるまで配慮している。

4) CD-ROMに録音機能がついている。学習者は自分の発音を日本人の発音と比較することもできるようにしている。また、CD-ROMについている「中国語 ↔ 日本語辞書」は品詞による分類ができるだけでなく学習者はキーボード上で両言語を切り替えることにより自分の知りたいことばを即座に調べることができる。

具体的な開発プロセス及び開発道具や手段などについては「日本語マルチメディア教材の開発をめぐって——『日本語初級総合教程（CD-ROM 付）』を中心に」（李娟莉，案野香子）という論文⁸を参照していただきたい。

次に掲載してある図は CD-ROM の主画面と各ユニットの第 1 課の主画面である。



図1 CD-ROMの主画面



図2 第1ユニット第1課の主画面

⁸ 当該論文は2004年8月6～7日，東京・昭和女子大学で開かれた2004年日本語教育国際研究大会の予稿集に掲載されている。



図3 第2ユニット第1課の主画面



図4 第3ユニット第1課の主画面

3-2. 2002年度～2003年度の利用状況

湖南大学における非専攻日本語教育は2001年まで人数的に年々増えてきたが、採用した教科書や教育方法などはあまり変わってはいなかった。ただし、2002年から中等学校での日本語既習者の学生のために非専攻第1外国語としての日本語コースを設置しただけでなく、マルチメディ

表3 湖南大学で開かれた非専攻日本語コースの概況

	人数	教材	時間数	単位数	
非専攻第2外国語	選択科目 ⁹	899名 ¹⁰	『日本語初級総合教程』（CD-ROM 付） 『日本語初級総合教程学習指導書』	64 時間	4
	英語専攻	55名	同上	160 時間	10
	観光管理専攻 ¹¹	32名	同上	128 時間	8
	英語修士課程専攻 ¹²	7名	『標準日本語』（中級）	160 時間	10
	博士課程専攻 ¹³	105名	『日本語初級総合教程』（CD-ROM 付） 『日本語初級総合教程学習指導書』	160 時間	10
非専攻第1外国語	10名	『大学日本語』（監修 顧明耀）	128 時間	12	
備考	1. 中国では新学期は毎年9月から始まるので、9月～翌年の7月を1学年とする。 2. 湖南大学は2000年からその近くにある「財政金融学院」と合併して規模を大きくしたが、この表には合併された「財政金融学院」のデータは入っていない。 3. どのコースでも担当教師は1人に限られているが、選択科目コースは授業担当教師以外に日本語学部の大学院生4名が交替で手伝いに来ていた ¹⁴ 。				

ア教材を使用しはじめた。表3は2002年の9月から2003年の7月において湖南大学で開かれた非専攻日本語コースの概況を示している。

表3で分かるように、2003年度には、湖南大学において、非専攻第2外国語として日本語を選んだ学習者数は1,098名にも達している。それに対し、非専攻第1外国語として日本語を選んだ学習者数は10名しかいない。前者はほとんど日本語の初心者であるが、後者は中等学校か高等学校での日本語既習者である。また、英語専攻、観光管理専攻、英語修士課程専攻、博士課程専攻の学生は英語以外に必ずもう一つの外国語をある程度習得しなければならないのに対し、他の専門の学生は英語を必修科目とし、それ以外に1年生の後期から卒業するまで大学で設けられた選択科目のどれでも良いがそのいずれかを選んで選択科目の単位数を八つとらなければならないことになっている（そのうち、文科系学生は理工系コースを二つ、理工系学生は文科系コースを二つとることになっている）。日本語選択科目コース日本語 I¹⁵の学習時間数は64時間と定められ、単位数は四つとされている。それを終了したものは日本語 II を選ぶことができる。日本語 II は

⁹ ここでいう「選択科目」は、本科生だけでなく大学院生も選択できる第2外国語としての日本語初級コースである。

¹⁰ 899名のうち、前期56名で後期843名である。人数が多いので、後期の学習者は八つの教室でネットワーク施設を通して同時に授業を受けたのである。

¹¹ ここでいう観光管理は英語の「tourism management」の意味を表す。

¹² ここでいう英語修士課程専攻は湖南大学の英語修士課程に入っている学生のことを指す。

¹³ ここでいう博士課程専攻は専門を問わず湖南大学の博士課程に入っている学生のことを指す。

¹⁴ 授業時、大学院生は毎回2名ずつ各教室をまわり、学習者の出席状況や学習ぶりの記入などを行なう。

¹⁵ 日本語 I は初心者のために設けられたコースであるが、日本語 I を終えた学習者と日本語既習者は日本語 II という選択科目コースを選ぶことができる。ただし、両方とも教える教師がいなければ開設しない。

学習時間数が 32 時間、単位数が 2 単位とされている。

教科書というと、これまで非専攻第 2 外国語の日本語コースは主に『標準日本語』¹⁶ と『大学日語簡明教程』（監修 王詩栄，林璋）¹⁷ を採用していたが、2002 年の 9 月から湖南大学による『日本語初級総合教程』（CD-ROM 付）及びその副教材『日本語初級総合教程学習指導書』を採用することになった。ただし、英語修士課程専攻コースには日本語既習者が 7 名いるので、『中日交流標準日本語』（中級）を使用することになった。非専攻第 1 外国語の日本語コースは中国教育部のシラバスに準拠した『大学日本語』全 4 冊（監修 顧明耀）を使っている。

学習時間数をみると、英語専攻、英語修士課程専攻、博士課程専攻コースは同じく 160 時間で、観光管理専攻コースも非専攻第 1 外国語としての日本語コースも 128 時間になっている。それに対し、選択科目コース日本語 I は 64 時間に設定されている。また、大学によってはこのような日本語選択科目コースの学習時間が 32 時間に設定されているところもあるという。学習時間数がばらついている理由は単位数の配分（基本的に学習時間の 16 時間を 1 単位数に設定されている）と学習者の日本語のレベルによるものといわれている。

授業担当教師については、湖南大学の場合、非専攻日本語を教える専任教師陣は設けられていない。日本語学部の教師は仕事の必要上、専攻日本語でも非専攻日本語でも教えることができる。ただし、以上あげた選択科目としての日本語コースは教える教師がいる場合に限り開講することになっている。湖南大学を例にすると、現時点においては、日本語教師数は 25 名（そのうち、日本人非常勤講師 3 名含む）であるのに対し、日本語専攻の学習者は 476 名にも達している（そのうち、在校院生 30 名含む）。日本語必修科目や英語専攻、観光管理専攻、それから院生の授業担当で精一杯になるため、選択科目としての日本語コースになかなか手が回らないのが現状である。2002 年 9 月から『日本語初級総合教程』（CD-ROM 付）の使用効果を検証するために、公募の形で 56 名の学生を集め、64 時間でこの新しい教材の前半部分を学習者に教えたのである。これがきっかけで、2003 年 2 月からの新学期には、教師一人によって日本語選択科目というコースを再び設けたところ、思いがけなく応募者が 843 名も集まった。教師一人で 800 名以上の学習者に対応することはこれまで考えられないことであったが、マルチメディア教材とネットワーク教育施設のおかげで、担当教師は主教室（100 名ぐらい入れる）で講義を行ない、主教室に入れない学習者は同時に湖南大学のネットワーク施設を利用し、ほかの教室で教師と対面しない状態で授業をうけた。このような形で講義を行なう場合、他のコースでは学習者がよくサボるが、今回のコースでは予想以上に大勢の学習者が教室に集まってきた。学期末の試験には、参加者が全部で

¹⁶ 『標準日本語』は（中国）人民教育出版社と（日本）光村図書出版株式会社によって共同で作られたものであり、『初級 1・2』は 1988 年 7 月、『中級 1・2』は 1990 年 1 月、中国語教育出版社により初版が出されたものである。

¹⁷ 『大学日語簡明教程』（監修 王詩栄，林璋）は 1999 年中国高等教育出版社によって出版された第 2 外国語日本語学習者向けの教科書である。

写真1 マルチメディア教材の利用による日本語講義中1



撮影 劉夢非

写真2 マルチメディア教材の利用による日本語講義中2



撮影 劉夢非

804名もいた。そのうち不合格者は33名だけで、不合格率は僅か4%であった。当時の教室風景は撮られなかったが、2004年の前半期に新しく開講したクラスの雰囲気デジタルカメラにすこし撮ってもらったので、その中の2枚を参考に上に並べておく。

3-3. 評価調査の実施

3-3-1. 調査目的

本稿の3-2.に述べたように湖南大学での非専攻日本語教育は他の大学と同じように盛んに行なわれている。他の大学と異なるところは2002年の9月から『日本語初級総合教程』（CD-ROM付）という新しい教材を試用したことである。この教科書の利用者はどのような人たちなのか、学習者の学習目的は何なのか、教科書の使用効果はどうなっているか、今後、マルチメディア教材

をどのように利用させ、改善したら良いかといったようなことがたいへん関心の的となっているので、2003年6月2日に湖南大学の選択科目コースの学習者を対象にアンケート調査を実施し、その後英語専攻コース、観光管理専攻コースの学習者にも同じ内容のアンケート調査を行なった。

総じていえば本調査の目的は湖南大学の『日本語初級総合教程』（CD-ROM付）利用者に対するアンケート調査を通して、大学非専攻日本語教育におけるマルチメディア教材利用の可能性、必要性及び本教材の実用性を明らかにし、学習者のニーズや意見に応じて、教材をはじめ、教育施設、カリキュラム及び教授法などについて改善を求めることにある。

3-3-2. 調査方法

3-3-2-1. アンケート調査票作成

本アンケート調査票は調査の目的に基づいて自作したものである。基本的には学習者の基本状況、学習目的と目標、学習効果、使用する教材、教授法及びカリキュラムに重点をおいて質問を設けた(付録参照)。全部で29問となっているが、最後の第30問をもって学習者にこのコースについての感想、意見、提案などを述べてもらった。

3-3-2-2. データの収集

- ① 対象：今回は湖南大学2003年度前半期の英語専攻コース、観光管理専攻コース及び選択科目コースの学習者を対象にしてアンケート調査を行なった。
- ② 収集方法：英語専攻コース、観光管理専攻コースは学習者数がそれほど多くなかったので、授業中にアンケート調査票を配り、その場で記入してもらうように英語専攻コースの授業担当教師の殷小林氏と観光管理専攻コースの陳秋霞氏に依頼した。選択科目コースについては学習者はネットワークを通じて授業を受けているため、普段から授業をサボる人が多少いた。そこでなるべく多くの人の意見を求めるために、大学の関係者の許可を得た上で、期末試験と同時にアンケート調査を実施した。
- ③ 回収状況：今回の調査では914部のアンケート調査票を配布し、833部回収した。回収率は91%である。そのうち、答えが不完全で無効にした2部を除き、本稿の分析には計831部を用いた。
- ④ データ処理：回収したアンケート調査票は筆者以外に湖南大学日本語学部の院生である曲鳳鳴氏と朱峰氏にも分類・統計してもらい、そのデータを調査の結果分析に利用した。

3-4. 調査の結果分析

3-4-1. アンケート対象者の基本状況

アンケート調査票の第1問から第9問まではアンケート対象者の基本状況についての質問であ

る。その回答によって次のようなことがよく分かった。

学習者の専門からみれば、英語専攻コースと観光管理専攻コースは単純なので各々41名と30名である。

選択科目コースは、760名のうち、640名だけ自分の専門についてきちんと回答してくれたが、そのうち、理工系学生は90%で、文科系学生は僅か10%だけである。これは湖南大学は総合大学であるが、理工系を専攻する人が圧倒的に多いことに起因しているといえる。しかもこのコースの学習者は、「コンピュータと通信学院」(104名16%)と「電気と情報工程学院」(103名16%)に集中していることがよく分かった。

性別からみれば男性532名64%で、女性299名36%である。学年別にみると、英語専攻と観光管理専攻コースの学習者全員が3年生であるのに対し、選択科目コース学習者の90%は1年生である。日本語学習歴については既習者は7%だけで、初心者は93%を占めている。それから、パソコンを持っている人は約36%で、持っていない人は54%である¹⁸。その上、インターネットの利用法については、インターネットカフェを利用する人が547名66%で、それに次いで大学ネットワークまたは学生寮につながるネットワークの利用者は216名26%、家庭用ブロードバンド接続の利用者は36名4%、家庭用ダイヤルアップ接続の利用者は39名5%だけである。インターネットを利用する目的については、資料収集は425名51%、ニュース閲覧は111名13%、チャット290名35%で、その他は165名20%である。その他のところにゲーム遊びなど書いた者もいる。

表4 学習目的について(多項目選択可能)

	選択科目	観光管理専攻	英語専攻
		760名	30名
A 日本語に興味がある	572名	16名	27名
B 将来の就職のため	238名	18名	25名
C 日本の漫画・アニメに興味がある	240名	3名	15名
D 日本の青春ドラマに興味がある	57名	4名	12名
E 日本の流行歌に興味がある	84名	0	6名
F 日本の文化に興味がある	260名	7名	8名
G 日本の経済に興味がある	98名	2名	3名
H 日本へ留学のため	79名	0	0
I 単位数をとるため	87名	14名	5名
J その他	66名	4名	4名

備考：J その他のところにゲーム遊びと記入した人がある。

¹⁸ 統計した数字が総数に合わないのは無回答者がいるからである。以下も同様。

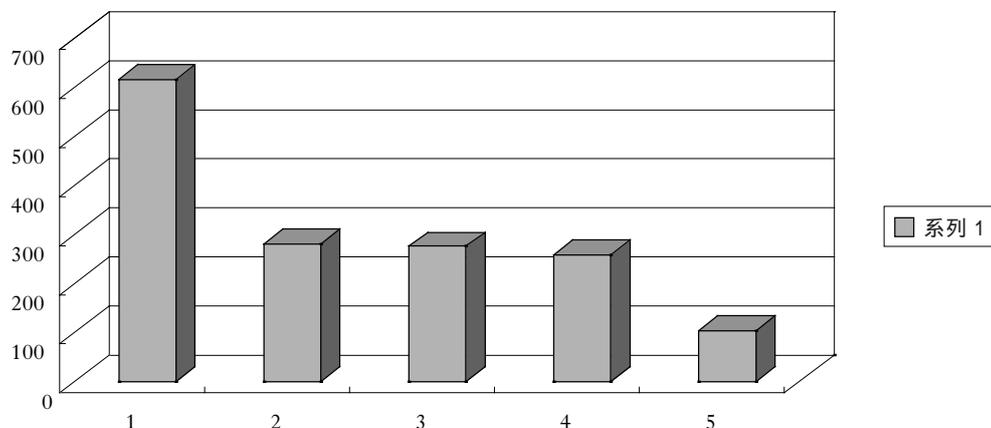


図5 学習目的による調査結果の上位にある五つの選択肢

注: 図中の「1」は選択肢の「A」, 「2」は選択肢の「B」, 「3」は選択肢の「F」, 「4」は選択肢の「C」, 「5」は選択肢の「G」を示す。

3-4-2. 学習目的と目標

アンケート調査票の第10問と第11問はアンケート対象者の学習目的と学習目標についての質問である。その結果は表4に示す。

表4で分かるように上位にある五つの項目は A > B > F > C > G の順である。即ち「A 日本語に興味がある」人は一番多く(計 615 名), その次は「B 将来の就職のため(計 281 名)」, 「F 日本の文化に興味がある(計 275 名)」は第3位, 「C 日本の漫画・アニメに興味がある(計 258 名)」は第4位で, 「G 日本の経済に興味がある(計 103 名)」は第5位である。その中から上位にある五つの選択肢を図5で示す。

第11問の「あなたはどのレベルまで日本語を勉強したいと思っていますか」という質問に対しては, 次のような回答を得た。

表5 学習目標

	選択科目	観光管理専攻	英語専攻
		760名	30名
A 少し分かれば良い	66名	0	3名
B 簡単なコミュニケーションができるようになりたい	422名	17名	13名
C 日本語能力試験3級に合格したい	164名	11名	19名
D 専門に関する文章が読めるようになりたい	109名	1名	6名

3-4-3. 使用する教材について

アンケート調査票の第12~18問は使用する教材についての質問である。その結果は以下の通

りである。

第 12 問の「このコースに使用する『日本語初級総合教程』（CD-ROM 付）を購入しましたか」という質問については、異なる三つのコースには次のような差が現れた。

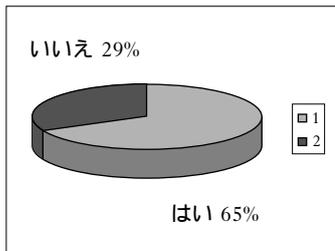


図 6 選択科目コース

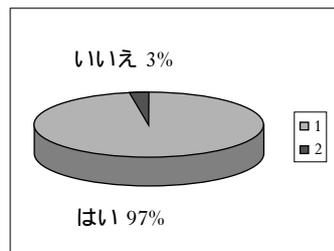


図 7 観光管理専攻コース

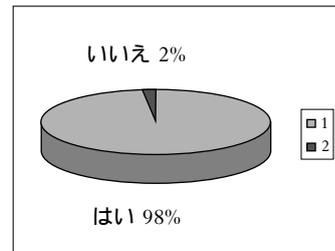


図 7 英語専攻コース

注：1 は買った人の比率を示し、2 は買わなかった人の比率を示す。
両方のパーセンテージが合わないのは無回答の人がいるためである。

第 14 問の「このコースに使用する『日本語初級総合教程学習指導書』を購入しましたか」という質問についての回答は図 9、図 10、図 11 に示した。

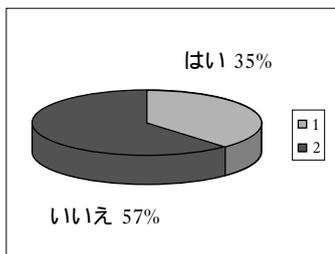


図 9 選択科目コース

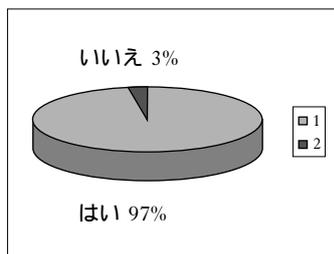


図 10 観光管理専攻コース

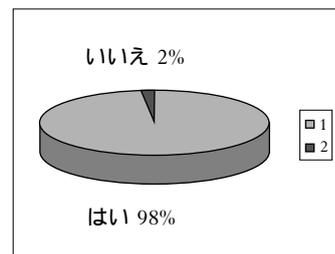


図 11 英語専攻コース

注：1 は買った人の比率を示し、2 は買わなかった人の比率を示す。

図 6～11 で分かるように、学習時間が 160 時間に設定されている観光管理専攻コースと英語専攻コースの学習者はほとんど主教材も副教材も買ったのに対し、選択科目コースの学習者は主教材を買った人が 65% で、副教材を買った人は 35% だけである。主教材を買わなかった理由として挙げられているのは値段が高すぎるためである (21%)。その次にあげられているのはパソコンを持っていないためである (11%)。副教材の『日本語初級総合教程学習指導書』を買わなかった理由として挙げられているのは「値段が高すぎるため」である (22%) だけでなく「その内容が主教材の CD-ROM に入っているため」という理由を挙げた人も多い (22%)。

第 16 問の「『日本語初級総合教程』（CD-ROM 付）のようなマルチメディア教材を使用したいですか、使用したくないですか」という質問に対しては、「使用したい」を選んだ人が圧倒的

表6 使用教材に対する評価

	(略称) *	教材に対する満足感				
		1	2	3	4	5
1. 全体的デザインに対する満足感	全体的デザイン	3	3	18	44	30
2. 内容構成に対する満足感	内容構成	2.5	4	16	43	34
3. レイアウトに対する満足感	レイアウト	2	6	19	39	33
4. CD-ROMの操作性に対する満足感	CD-ROMの操作性	2.5	6	24	32	34
5. CD-ROMの双方向性に対する満足感	CD-ROMの双方向性	4.5	8	27	35	26

注：満足感の高い順位は5>4>3>2>1となる。* 満足感を示す。その他の数字はすべて%を示す。

表7 学習者の好きな教材タイプについて

	選択科目	観光管理専攻	英語専攻
	760名	30名	41名
A 伝統的教材(文字教科書)	126名	1名	6名
B マルチメディア教材(文字教科書プラスCD-ROM)	543名	27名	29名
C インターネット教材	83名	0	2名
D その他	9名	1名	4名

に多く、合わせて573名もいて調査対象者全体の69%を占めている。

ちなみに主教材(文字教科書+CD-ROM)は中国人民幣の43元(日本円の約600円にあたる)で、副教材は22.6元(日本円の約300円にあたる)である。

第17問は「以下の1)~5)は本教材に対する評価です。(1 2 3 4 5はあなたの満足感を表しています。「5」は非常に満足している、「1」は不満足を示しています。ほかはそれに応じて順次増減します。あなたの満足感によってそのうちのいずれかを選んでください。)」という質問である。三つのコースによる統計は表6に示す。

「あなたはどのような教材を好みますか。次のA~Dから一つを選んでください」という第18問に対する回答は表7に示す。

3-4-4. 教授法及びカリキュラムなどについて

質問文の第19問~第29問は教授法及びカリキュラムなどについての質問であるが、その回答をみると、次のようなことが分かった。

このコースの学習効果については、半分以上の人(438名53%)が良いと思っている。あまり良くないと思う人の多くはその理由として「設備」を取り上げている(374名45%)。教師や教材に対する不満を持っている人は少ない。このコースの授業時間数についてはちょうど良いと思う人

は 492 名 59% で、少なすぎると思う人は 236 名 28% である。多すぎると思う人はほとんどいない。それから、重点的に教えてほしい項目は「A 聞く話す B 読み書き C 文法 D 翻訳 E その他」という項目をあげたが、そのうち、選択肢の「A」を選んだ人が一番多く(570 名 69%)、その次は「B」(208 名 25%)、「C」(45 名 5%)、「D」(21 名 3%)の順である。これでよく分かるように、「聞く話す」を重視する学習者が一番多く、次いで読み書き、翻訳の順となっている。

第 23 問は「あなたはこのコースで専門用語を習う必要があると思いますか」となっているが、「ある」を選んだ人は 504 名 61%、「なし」は 131 名 16%、「どちらでもよい」は 187 名 23%、その他を選んだ人は 10 名 1%しかいない。

「あなたの好きな授業方式を次の A~D から選んでください。」(第 24 問)に関しては以下のような回答を得た(表 8)。

表 8 学習者の好きな授業方式について

	選択科目	観光管理専攻	英語専攻
		760 名	30 名
A 教師について学ぶ	562 名	21 名	21 名
B インターネット教室利用	71 名	1 名	1 名
C マルチメディア式教室で学ぶ	102 名	6 名	16 名
D その他	18 名	2 名	3 名

表 8 で分かるように選択肢の A を選んだ人が圧倒的に多い。マルチメディア教材を望む人がたくさんいるが(表 7 参照)、授業の方式という点、依然として教師に従って学びたがる人のほうが多い。これは第 20 問の選択肢の C を選んだ人が多いことから分かる。即ち、マルチメディア設備がまだ完備されていないため、主教室でないと教師の声を聞き取りにくいだけでなく、教師に質問したくてもなかなかできないからである。また、教師と対面でないと、人が教室を出たり入ったりして教室の秩序があまり良くないことも取り上げられている。

「日本語を勉強する中で、一番困難を感じた点を次の A~D から選んでください。」(第 25 問)については「A 発音 B ヒヤリング C 文法 D 単語記憶」のように四つの選択肢の中から一つ選んでもらったが、その結果、二つ以上選んだ人もいる。

三つのコースの結果をまとめてみると選択肢の「D 単語の記憶」を選んだ人が一番多い(38%)。次いで「C 文法」(28%)、「B ヒヤリング」(18%)、「A 発音」(18%)の順となっている。

「あなたは自分の学習上の問題点をどのように解決しようとしていますか」(第 26 問)という質問に対しては、選択肢の「C 一層練習する」を選んだ人が一番多く(49%)、その次は「A 自分で本を読む」(41%)、「D 無視」(7%)、「B 教師に聞く」(3%)の順である。

「あなたは授業のあと、どういうふうに日本語を勉強していますか」(第 27 問)という質問文の

回答をみると、選択肢の A「復習と予習」を選んだ人は 51%、それから、選択肢の B「関連書籍と資料を読む」を選んだ人は 25%、選択肢の C「日本語のラジオ放送を聞く」を選んだ人は 2% だけで、選択肢の D「ほとんど勉強しない」を選んだ人は 22% である。

「日本語の勉強についてあなたはどのように思っていますか」(第 28 問)については、予想通り、選択肢の「C 難しくも易しくもない」を選んだ人が一番多く、72% にも達している。これは日本語の発音が中国語ほど難しくなく、日本語には漢字がたくさん使われているので、中国人にはあまり難しくないと定論に一致している。

表9 日本語の勉強について

	選択科目	観光管理専攻	英語専攻
	760 名	30 名	41 名
A 非常に難しい	140 名	18 名	17 名
B とても簡単だ	32 名	0	0
C 難しくも易しくもない	556 名	12 名	24 名
D 専門ではないから何とも思わない	34 名	0	0

「来学期も本コースを設けた場合、あなたはまたこのコースを受講しますか」(第 29 問)という質問文についての回答から、このような日本語コースが来学期も開かれれば、半分ぐらいの人がまた引き続き参加するだろうという見込みが調査時点でなされた。

3-4-5. 学習者からの声

本アンケート調査の最後に「このコースについての感想、意見または提案などを書いてください」という筆者の願いに対しては、多くの学習者から様々な私見を出された。まとめてみると主として次のようなものがある。

良いところ

- ア. このコースを通して日本文化に対する理解が深まった。
- イ. CD-ROM の日本語の発音がきれいではっきりしている。
- ウ. 画面が美しく、CD-ROM の双方向機能が強い。
- エ. 内容が豊かでデザインには新鮮さがある。
- オ. このコースに使う教科書は独学をするのに良い。
- カ. 教師は教育レベルが高く、ユーモアにあふれる講義を通して学生の学習意欲と興味を喚起した。
- キ. 文字教科書プラス CD-ROM という組み合わせは勉強するのに便利である。
- ク. CD-ROM に録音機能がついているのはすばらしいことである。

- ケ. 主教室はほかの教室より雰囲気が良い. 効果的に勉強できる. (選択科目コース)

改善すべき点

- ア. 画面のページ間切り替えをするのに時間がかかる.
イ. 教室の設備を改善すべき.
ウ. 画面上に出る文字が小さすぎて見づらい.
エ. 時間割はあまり合理的でない.
オ. 選択科目コースに参加する人が多すぎて, 学習効果にいい影響を与えたとはいえない.
カ. 教科書は使いやすいが, 値段が高すぎる.
キ. 教師と接する機会はほとんどない. (選択科目コース)
ク. 教科書には文法に対する説明があまり詳しくない.
ケ. CD-ROM はマルチメディア教室で使うと不具合が出てくることがある.
コ. CD-ROM の中の練習問題をとばしてやることができないので, 不便を感じることもある.
サ. 管理上の問題がある. (選択科目コース)

学習者からの提案

- ア. 選択科目コースの授業担当教師を増やしてほしい.
イ. 教師と学習者相互間の交流を深めたい.
ウ. 日本の文化などについてもっと紹介してほしい.
エ. 教科書や CD-ROM に入っていないことについて教師に多く話してほしい.
オ. 日本語学習に役立つ参考書, 雑誌, おもしろい映画及びアニメなどを提供してほしい.
カ. 小さいクラスにもらって教室で会話の練習をしたい.
キ. 日常用語をもっと多く教えてほしい.
ク. 練習や宿題を増やしてほしい.
ケ. 授業中, 朗読の練習を強め, 文法知識のまとめを多くやったほうが良い.
コ. 日本人か日本語学部の学生と交流したい.
サ. 日本語及び日本文化に関する活動を組織してほしい.
シ. 日本語版の取り扱い説明書が読めるように教えてほしい.

4. ま と め

2003年6月に行なわれた本調査研究は、『日本語初級総合教程』(CD-ROM 付)というマルチメディア型教材が短い期間内で使用された後, 湖南大学の利用者を対象に行なわれたもので, ア

ンケートによる評価のみになっているが、当教材利用上のメリットと問題点が以上の考察を通してだいぶ分かるようになった。まとめてみると、次のような項目が挙げられる。

メリット

- ① 学習者急増、教員不足という問題の緩和に役立つ。
- ② 学習者の学習意欲を刺激し、教師の負担を軽減するのに有利。
- ③ CD-ROM がついているので、学習者の独学にたいへん便利。
- ④ 文字、音声、画像などが一体化されているため、学習効果をあげることができる。
- ⑤ 豊富な内容からなる CD-ROM では教師の教えたいところまたは学生の勉強したいところを自由に選ぶことができる。

問題点

- ① 教師が CD-ROM 付教材の使用法を理解していないため、教材のメリットが十分に生かされないことがある。例えば、2002 年 9 月より湖南大学における理工系博士コースの学生向けにこの教材が利用されたが、授業担当教師が普通の教室で従来のような教え方でこれを使ったという。
- ② 学習時間の違うコースで使う場合、どの部分を教師が導入し、どの部分を学習者に自習させたほうが良いかなどの問題がはっきりされていないので、教材の使い方がよく分からない教師は戸惑ったことがあるという。
- ③ 独学するのに便利であるが、教室で使う場合はネットワーク施設によるところが多い。設備の整っていないところでは効果的に利用できない。
- ④ 教科書に CD-ROM がついていると、コストが高くなり、学習時間数の少ないコースの学生または経済的に余裕のない学生はこれを求めたがらない。
- ⑤ ネットワーク施設のある教室でこれを使うと、教師と対面していないため、教師と交流する機会が少なく、学習者には不慣れである。

解決案

- ① CD-ROM 化された『教学参考書』を作り、教師と学習者のために準備しておく。
- ② 『教学参考書』には重点的に教えるところをとりあげ、この教科書の使い方などをはっきりと説明しておく。
- ③ 学校の設備管理人とよく連絡を保ち、授業の前に設備の検査などをしてもらって、きちんと使えるように調整させておく。
- ④ 教科書のコストを下げるため、コース別に学習内容を削減し、学習時間に応じて『日本語

初級総合教程』(CD-ROM 付)の短縮版を作ることなどが考えられる。

以上のような解決案はマルチメディア教材の試用後、アンケート調査の結果による分析を行った後で出されたものである。これがきっかけとなって、『日本語初級総合教程』用『教学参考書』¹⁹及び60時間～80時間コース用短縮版『日本語基礎教程』とその副教材の『日本語基礎教程学習指導書』²⁰が中国高等教育出版社によって2004年中に出版された。また、独立行政法人国際交流基金の多大な支援により、『日本語初級総合教程』に基づく教授法とカリキュラム研究も進んでいる。

5. 今後の課題と展望

「この数年来世界の日本語教育は、それ以前の10年あるいは20年間のあり方とは異なる大きな変化を見せ始めた」(水谷 修 2003:1)。国際交流基金による2003年海外日本語教育機関調査からでも分かるように世界の日本語教育は前回調査の1998年に比べるとだいぶ変わってきた。そのうち、中国における日本語学習者数が約39万人にも達していることから、中国の日本語教育の発展ぶりが注目されている。大学非専攻日本語教育における学習者急増、教師不足の問題を解決するのにマルチメディア教材の採用がきっと役に立つだろうと見込まれているが、同時にマルチメディア教材の質的向上、初級に次ぐ中上級マルチメディア教材の編集及びそのよりよい利用法について研究すべき課題がたくさん残されている。また、現存のマルチメディア教材の有効性と利用者の具体的な学習活動とその観察に基づく研究も必要である。情報通信技術の普及と発展に伴って、日本語マルチメディア教材の開発・利用の発展とともにそれに関する調査・研究もますます盛んになるのではないかと期待されている。

謝 辞

本稿を作成するに当たり、貴重なコメントを出してくださいました査読者Aと査読者Bに厚く御礼を申し上げます。本調査研究のため、終始懇切にご助言やお励ましなどをいただいた日本静岡大学 留学生センターの案野香子先生に深く感謝申し上げます。また、様々なご協力をしていただいた湖南大学日本語学部の先生方やアンケート調査のデータ収集や整理などを根気よく手伝ってくださった湖南大学の院生の曲鳳鳴氏や朱峰氏らに心から感謝の意を表します。

¹⁹ 『日本語初級総合教程教学参考書 CD-ROM 付』(編著 李姐莉)は平成15年度日本語教育フェロシップの研究成果の一つとして2004年7月に中国高等教育出版社により出版されたものである。

²⁰ 『日本語基礎教程 CD-ROM 付』と『日本語基礎教程学習指導書』(監修 李姐莉)は『日本語初級総合教程』の短縮版として2004年10月に中国高等教育出版社により出版されたものである。

参 考 文 献

- NHK 放送文化研究所(2000)『現代日本人の意識構造』, 日本放送出版協会.
- 水谷 修(2003)「日本語教育——世界の動向と日本国内における変化」(基調講演), 『アジア太平洋地域における日本語教育と日本研究——現状と展望』, 香港日本語教育研究会.
- 王 宏(1994)「1990年中国日本語教育アンケート調査結果報告」『世界の日本語教育』, 国際交流基金, 185-201.
- (1995)「1993年中国日本語教育事情調査報告——1990年との比較——」『世界の日本語教育』, 国際交流基金, 191-206.
- 孫 玉 潔(2002)「大学非専攻日本語教育と専攻日本語教育の異同」『中国における日本語教育の変遷及び展望』, 徐敏民, 韓小龍編, 上海三聯書店, 40-44.
- (2003)「大学非専攻日本語の教育について II」『アジア太平洋地域における日本語教育と日本研究——現状と展望』, 宮副ウォン・裕子編, 香港日本語教育研究会, 137-146.
- 徐 海 明(2002)「大学日語教育現状と思考」『中国における日本語教育の変遷及び展望』, 徐敏民, 韓小龍編, 上海三聯書店, 115-121.
- 羊 昭 紅(2002)「大学日語学習現状調査と思考」『中国における日本語教育の変遷及び展望』, 徐敏民, 韓小龍編, 上海三聯書店, 103-109.
- 馮 峰(2002)「研究生日語教學的探索与改革」『中国における日本語教育の変遷及び展望』, 徐敏民, 韓小龍編, 上海三聯書店, 78-81.
- 耿 鉄 珍(2002)「放眼未来, 開展大学日語教學」『中国における日本語教育の変遷及び展望』, 徐敏民, 韓小龍編, 上海三聯書店, 72-77.
- 王 際 莘(2002)「大学日語教學改革現状与展望」『中国における日本語教育の変遷及び展望』, 徐敏民, 韓小龍編, 上海三聯書店, 87-91.
- 王 麗 薇(2002)「非専攻日本語教育における文法教育から文型教育への轉換」『中国における日本語教育の変遷及び展望』, 徐敏民, 韓小龍編, 上海三聯書店, 401-405.
- 李 妲 莉 李 亞(2002)「多媒体教材在日語教育中的運用」『中国における日本語教育の変遷及び展望』, 徐敏民, 韓小龍編, 上海三聯書店, 360-364.
- 邱 蔚(2003-1)「日語網絡課程的開發及其特点——以《日本語初級教程》為例」『日語學習与研究』, 北京《日語學習与研究》編輯委員會, 57-61.
- , 案野香子(2004)「日本語マルチメディア教材の開發をめぐって——『日本語初級総合教程(CD-ROM 付)』を中心に」『2004年日本語教育国際研究大会予稿集 発表 2』, 社団法人日本語教育学会 / 独立行政法人国際交流基金 / 独立行政法人国立国語研究所, 70-75

- 15 14番でBを選んだ方は、その理由を教えてください。
 A 高すぎる B 学生に不必要 C その内容は主教材のCD-ROMに入っている
 D その他
- 16 『日本語初級総合教程』(CD-ROM付)のようなマルチメディア教材を使用したいですか、使用したくないですか。
 A 使用したい B 比較的興味がある
 C どちらでも良い D 使用したくない
- 17 以下の1)~5)は本教材に対する評価です。(1 2 3 4 5はあなたの満足感を表しています。「5」は非常に満足している、「1」は不満足を示しています。ほかはそれに応じて順次増減します。あなたの満足感によってそのうちのいずれかを選んでください。)
- | | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|---|
| 1) 本教材の全体的デザインに対する満足感 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 本教材の内容構成に対する満足感 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 本教材のレイアウトに対する満足感 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 本教材用CD-ROMの操作性に対する満足感 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 本教材用CD-ROMの双方向性に対する満足感 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
- 18 あなたはどのような教材を好みますか。次のA~Dから選んでください。
 A 伝統的教材(文字教科書) B マルチメディア教材(文字教科書プラスCD-ROM)
 C インターネット教材 D その他
 選んだ項目について簡単にその理由を説明してください。

四、教授法及びカリキュラムなどについて

- 19 あなたはこのコースの学習効果についてどう思いますか。
 A 非常に良い B 良い C 普通 D あまり良くない
- 20 このコースの学習効果があまり良くないと思う場合の理由を次のA~Dから選んでください。
 A 教師 B 教材 C 設備 D その他
- 21 あなたはこのコースの授業時間数についてどう思いますか。
 A ちょうど良い B 多すぎる C 少なすぎる D その他
- 22 教師に重点的に教えてほしい項目を次のA~Dから選んでください。
 A 聞く話す B 読み書き C 文法 D 翻訳
- 23 あなたは専門用語を習得する必要があると思いますか。
 A ある B なし C どちらでも良い D その他
- 24 あなたの好きな授業方式を次のA~Dから選んでください。
 A 教師について学ぶ B インターネット教室利用
 C マルチメディア式教室で学ぶ D その他
 選んだ項目の理由を簡単に書いてください。
- 25 日本語を勉強する中で、一番困難を感じた点を次のA~Dから選んでください。
 A 発音 B ヒヤリング C 文法 D 単語記憶
- 26 あなたは自分の学習上の問題点をどのように解決しようとしていますか。
 A 自分で本を読む B 教師に聞く C 一層練習する D 無視
- 27 あなたは授業のあと、どういうふうに日本語を勉強していますか。
 A 復習と予習 B 関連書籍と資料を読む
 C 日本語のラジオ放送を聞く D ほとんど勉強しない

